



文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

加藤 泰弘

## 学習指導要領が目指す書写・書道教育

現行の学習指導要領は、小学校が平成23年度、中学校は平成24年度より完全実施され、高等学校は平成25年度から年次進行で実施されており、本年度（平成27年度）で完成年度を迎えます。本連載では、現行の教育課程が目指す書写・書道教育の視点を紹介していきます。

前回（平成27年10月号）は、国語科書写から芸術科書道への接続について述べました。今回もこの視点から、改訂の具体的な内容について解説します。

### 一 国語科書写の改訂の経緯

平成20年1月17日に中央教育審議会は「幼稚園、小学校、中学校、高

資料1（国語「改善の具体的事項」より）

<p>（小学校） ○書写の指導については、手紙を書いたり記録をとったりするなどの実際の日常生活や学習活動に役立つよう、内容や指導の在り方の改善を図る。 （傍線筆者）</p>	<p>（中学校） ○書写の指導については、社会生活に役立つことを引き続き重視するとともに、文字文化に親しむようにするため、内容や指導の在り方の改善を図る。 （傍線筆者）</p>
--	--

等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について（答申）」を示しました（資料1）。

ここには国語科書写の改訂の方向性が明確に示されています。

改善の具体的事項は、書写の学習が「日常生活」「社会生活」に役立つよう改善を図る方向性を示しています。これらを踏まえ、現行の学習指導要領では、小学校においては、単に文字を正しく整えて書く力を育成することに止まらず、「文字の集まり（文字群）の書き方」や「目的に応じた書き方」へと系統的に指導し、相手意識や場面意識をもって書

くなど、日常生活において生きて働く書写力を育てることが一層重視されることとなったのです。

文化庁は平成27年9月、「国語に関する世論調査」（平成26年度）の結果を発表しました。「年賀状などにおいて、印刷されたものと手書きが加えられたものとはどちらが良いと思うか」という問いに対して、「手書き」と回答した人は9割弱に上るという結果が示されました（資料2）。電子メールが一般化した社会において、このように多くの人が手紙は手書きが良いと感じているのです。手紙を書く時には、自然と相手意識や場面意識をもつこととなります。また、その形式を含めて手書き文字文化として、その良さを伝えるべく必要があるでしょう。

一方、中学校においては、確かな書写力を社会生活に生かすとともに、文字文化についての認識を改めて形成させる学習が新設されています。具体的には、第三学年の指導事項に「身の回りの多様な文字に関心をも

ち、効果的に文字を書くこと」という文字の芸術性に関心を向ける素地を養い、芸術科書道への発展性を見通す指導事項が位置付けられました。

前回で解説したように、小学校は昭和52年、中学校は平成元年の学習指導要領の改訂において、書写は「言語事項」に位置付けられ、「文字を正しく整えて速く書く」能力を育成するという技能面が強調されることになりました。特に中学校においては、従前は「表現」という領域に

位置付けられていたこともあり、高等学校芸術科書道への円滑な接続が課題とされてきたのです。現行の学習指導要領において、書写が「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に位置付けられ、特に中学校における文字文化の多様性に関心をもち指導は、芸術科書道への円滑な接続において特筆される点です。

このような現行学習指導要領における書写の具体的な内容を高等学校芸術科書道の担当教員が十分に理解

資料2 平成26年度「国語に関する世論調査」(文化庁)より抜粋

年賀状や挨拶状などにおいて、文字の部分が全て印刷されたものと文字の部分が手書きされたものや手書きが一言加えられたものとは、どちらが良いと思うかを尋ねた。「手書きされたものや手書きが一言加えられたもの」が5・0%、「どちらも変わらない」が6・6%となっている。

(%)	全(印刷されたもの)	手書きされたものや手書きが一言加えられたもの	どちらも変わらない	分からない
	5・0	87・6	6・6	0・8

文字を手書きする習慣は、これからの時代においても大切にすべきであると思うか、それともそうは思わないかを尋ねた。

(%)	大切にすべきであると思う	大切にすべきであるとは思わない	どちらとも言えない	分からない
	91・5	1・6	6・4	0・5

した上で、授業を構想することが求められているのです。

二 国語科書写から芸術科書道への円滑な接続を図るために

芸術科書道Iの目標には「書写能力を高め」、また「書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める」ことが示されています。資料3は指導

事項等に示されている内容の系統性を示したものです。国語科書写の学習の基礎の上に、発展的に芸術科書道の学習が開示されることを十分に理解し、その系統性を踏まえて、書

資料3 書写と書道の系統性

国語科 書写	芸術科「書道I」
点画の長短、方向、接し方、交わり方等(点画相互の関係) 概形 文字の組み立て方(左右 上下 内外) 筆庄、穂先の動き、点画のつながり	字形の構成 用筆や運筆の技法 漢字と仮名の調和 全体の構成
文字の大小 中心 配列	漢字の構成 漢字の書体の変遷、仮名の成立
文字に関する事項(第3学年・第4学年) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。 文字に関する事項(第5学年・第6学年) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	日常生活における書への関心 書の効用、文字と書の伝統と文化
(中学校 第3学年) 身の回りの多様な文字	等 等 等 等

写から書道への円滑な接続を図ることが重要です。

書道Iにおいては、日常生活や社会生活と書との関わりを考える実践を構想することが求められています。

例えば、生活用品等の手書き文字を取り上げ、現代生活において書が果たしている幅広い役割について考えたり、生徒自身が制作した作品を額装し、自宅等に展示して生活空間における働きなどを考えたりするなど、日常生活の中で何気なく果たしている書の効用に気付くような授業実践が重要となっています。

(次回に続く)